

地域学校協働活動実施にあたり、重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定とその成果(令和5年度)

課題の類型1	課題の類型2	課題の詳細	左記課題の解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)	
②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳、スキーの学校において、専門的、技術的な指導をできる教職員が少なく、校内で指導可能な教職員が急遽授業に参加している ・学校授業の充実のために、学校支援ボランティアとの、きめ細かな連絡や事前連絡の体制が整っていない ・サポーターの高齢化による後継者の発掘および活動の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地学校に、地域学校協働活動推進員を常駐させ、各授業でのサポーターの役割や授業時間を、個別で連絡する。 ・連絡にあたって、推進員が教職員と打合せを行い、内容をまとめて案内を行う。 ・サポーターの割り振りは、教育委員会に常駐する統括コーディネーターが行う。 ・学校やサポーターの希望を最大限、実現できるように日程調整を行う。 ・授業実施の前と後に、推進員とサポーターの打合せを行い、授業支援にあたっての希望などを聞き取り、学校へ伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーターと学校の連携が円滑に行われ、サポーターが自己有用感を感じながら、今後も学校授業のサポート体制が継続される。 ・サポーターの事後アンケートにおいて、「次年度もサポーターを引き受けてくれるか」という設問に対して、肯定的な回答が90%になる。 	80	%	90	90	5	(成果) <ul style="list-style-type: none"> ・学校授業の充実を図るため、事前打合せに学校教職員が参加し、学校の実情、課題をサポーターと直接協議するなど、学校、サポーター相互が連携しやすい体制構築に努めた。 ・サポーターの役割などを市教委から学校に周知を図り、改善がみられている。 ・活動を理解していただき、サポーターが4名増員となった。 (課題) <ul style="list-style-type: none"> ・サポーターの役割認識について、一部の学校の認識がまだ改善されていなく、不明確だという意見があった。 (改善点) <ul style="list-style-type: none"> ・地域に根差したサポーターの発掘の手段として、学校運営協議会や公民館と連携した周知を計画する。 	
③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が土日、祝日に情報通信機器を使用する時間が平日に比べて長い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土日や長期休業期間中の平日など、学校の授業がない日に、児童生徒が職業、文化、自然体験を行う機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の休みの日の情報通信機器の利用時間を軽減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年のスマートフォン等情報通信機器の利用に関するアンケート調査の「情報通信機器の利用時間」のうち、土日、祝日の小学生の利用時間2時間以上の割合を5%下げる。 	75	%	70	82	1	(成果) <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日の外部人材を活用した活動の参加要件を下げ、より多くの児童が参加した。 (課題) <ul style="list-style-type: none"> ・目標では、値の減少を目標としたが、増加することとなった。 ・参加者数は増加したが、対象児童の参加割合は目標値を達成するのに十分な人数や回数ではなかった。